

日本草地学会誌原稿作成要領

(2023年3月28日一部改正)

I. 原稿の種類と書式

1. 原稿の種類

原稿は研究報文、短報、総説、実用記事、特集、文献抄録および資料などとする。

2. 原稿の書式

(1) 原稿は、一部〔Synopsis, 図表（英語の場合）など〕を除いて和文とし、ワードプロセッサにより作成する。用紙はA4とし、上下左右約3cmの余白をとり、概ね1頁22行、1行27文字で横書きする。原稿下欄外に頁番号を、左欄外に行番号（各行あるいは5行ごと）を付ける。

(2) ワードプロセッサによる文字入力（書体など）に関しては「Ⅲ. 1. 書体、表記ならびに用語」を参照のこと。

(3) 図表の作成については「Ⅳ. 図表の書式など」を参照のこと。

II. 原稿の構成

1. 原稿の構成

〔 〕の項目は必要に応じて用いる。

(1) 研究報文

1枚目（表紙）：略題、表題、著者名、所属機関名（郵便番号、所在地）、英語所属機関名・所在地、脚注

2～m枚目：Synopsis, Key words

m+1～n枚目：緒言、材料と方法、結果、考察、〔結果と考察〕、〔結論〕、〔謝辞〕、引用文献

n+1～p枚目：要旨、キーワード

p+1～q枚目：表

q+1～r枚目：図の説明（それぞれの図の頁に記してもよい）

r+1～s枚目：図

(2) 短報

1枚目（表紙）：略題、表題、著者名、所属機関名（郵便番号、所在地）、キーワード、英語表題、英語著者名、英語所属機関名・所在地、Key words、脚注

2～m枚目：緒言、材料と方法、結果、考察、〔結果と考察〕、〔謝辞〕、引用文献

m+1～n枚目：Synopsis

n+1～p枚目：表（図表は計2枚まで）

p+1～q枚目：図の説明（それぞれの図の頁に記してもよい）

q+1～r枚目：図（図表は計2枚まで）

(3) 総説

1 枚目 (表紙) : 略題, 表題, 著者名, 所属機関名 (郵便番号, 所在地), 英語所属機関名・所在地, 脚注

2~m 枚目 : Synopsis, Key words

m+1~n 枚目:本文 (緒言 [はじめに], その他の見出しによる部分, [結論], [謝辞], 引用文献)

n+1~p 枚目 : 要旨, キーワード

p+1~q 枚目 : 表

q+1~r 枚目 : 図の説明 (それぞれの図の頁に記してもよい)

r+1~s 枚目 : 図

(4) 実用記事, 特集, 資料など

1 枚目 (表紙) : 略題, 表題, 著者名, 所属機関名 (郵便番号, 所在地), キーワード, 英語表題, 英語著者名, 英語所属機関名・所在地, Key words, 脚注

2~m 枚目 : 本文 (緒言 [はじめに], その他の見出しによる部分, [結論], [謝辞], 引用文献)

m+1~n 枚目 : 表

n+1~p 枚目 : 図の説明 (それぞれの図の頁に記してもよい)

p+1~q 枚目 : 図

2. 略題

(1) 略題 (奇数頁欄外略題用) は 20 字以内とする。

(2) 略題に略号を含める場合には, 草地学用語集に掲載されているもののみを用いる (例 : LAI)。

3. 表題

(1) 表題は内容を簡潔に表すものとする。「~に関する研究」, 「~について」のような表現は避ける。

(2) できる限り, 生物名の後には () 書きで学名を入れる。

(3) 副題番号はアラビア数字とし, 数字の後にピリオドを打つ。

(4) 短報の表題は独立したものとし, 分割報告の形式はとらない。

(5) 特集を構成する論文 (巻頭言以外) の表題は, それ単独で論文内容が表せるものにする。

(6) 英文表題 (副題がある場合には主題) では, 最初の単語の 1 文字目は大文字とする。それ以降の単語については, 冠詞, 接続詞, 前置詞以外の 1 文字目は大文字とする。ハイフンで結ばれた単語は 1 語とみなし, 最初の文字のみ大文字とする (例 : Turf-type)。英文副題では, 最初の単語と固有名詞 (学名を含む) の 1 文字目のみを大文字とする。

例 1 :

暖地型イネ科牧草の物理・化学処理による栄養価値改善

3. アンモニア処理が化学成分および乾物消化率に及ぼす影響

例 2 :

Response of Bahiagrass (*Paspalum notatum* Flugge) Sward to Cutting Height

4. Canopy structure and light extinction

4. 著者名

- (1) 和文著者名の間は中点（・），英文著者名の間はカンマ（,）および and とする。
- (2) 姓と名のいずれか一方もしくは両方が漢字 1 文字の場合，姓と名の上に全角スペース 1 つを挿入する。
- (3) 和文における外国人著者名は，漢字で表現できる場合を除き，英語（原語）とする。
- (4) 英語（原語）表記の外国人著者名はファーストネーム，ミドルネーム，ラストネームの順とする。ファーストネームやミドルネームはイニシャルに略してもよい。
- (5) 著者の所属機関が異なる場合には，数字なし，1，2，3，…の上付文字で区別する。
- (6) 著者が 1 名の場合には，著者に*（上付アスタリスク）を付ける。
- (7) 著者が 2 名以上の場合には，連絡著者（corresponding author）に*（上付アスタリスク）を付ける（筆頭著者であっても付ける）。

例 1 :

Wempie Pakiding・平田昌彦*

例 2 :

松山裕城*・塩谷 繁・石田元彦¹・
西田武弘・細田謙次・額爾敦巴雅爾・
安藤 貞²・M.R. Islam³・吉田宣夫

例 3 :

Tomoyuki Takai¹*, Hiroyuki Iuchi²,
Akira Yoshizawa³, Junichi Yonemaru⁴,
Kazuhiro Uchiyama⁵, Masaaki Katura⁶,
Yasuharu Sanada and
Toshihiko Yamada⁷

5. 所属機関名，所在地など

- (1) 数字なし，1，2，3，…の上付文字（著者名に対応）で始める。
- (2) 研究実施時と異なる場合には「現在：～」，「Present address：～」として記載する。
- (3) 所属機関名は詳細過ぎないようにする（郵便などによる連絡に必要な情報とする）。例えば，大きなレベルでは，「国立大学法人」，「独立行政法人」，などの名称を省く。小さなレベルでは，「研究室」，「講座」，「チーム」などの名称を省く。

例 :

農研機構畜産研究部門
北海道立総合研究機構上川農業試験場
東京大学大学院農学生命科学研究科

石川県農林総合研究センター畜産試験場

(4) 所在地あるいは住所が市の場合で、市名が府県名と同じ時には府県は不要。

例：

329-2793 栃木県那須塩原市千本松 768

098-5738 北海道枝幸郡浜頓別町緑ヶ丘 8-2

950-2181 新潟市西区五十嵐 2 の町 8050

(5) 英語所在地は、市町村名までとする。

例：

Sendai, Miyagi 981-8855, Japan

Miyazaki 889-2192, Japan

6. 脚注

(1) 著者が1名の場合には、*（上付アスタリスク）に続けて、著者のメールアドレスを記載する。

例：

*xxx@xxx.xx.jp

(2) 著者が2名以上の場合には、*（上付アスタリスク）に続けて、その説明（和文・英文両方）と連絡著者のメールアドレスを記載する。

例：

*連絡著者（corresponding author）：

xxx@xxx.xx.jp

(3) 大要あるいは一部が、既に学会発表会などにおいて口頭もしくはポスター発表されている場合には、下記の例に準じて記載する。日本草地学会発表会以外の発表も記載する。

例1：

一部は日本草地学会第60回発表会（2005年3月）において発表。

例2：

大要は第20回国際草地学会議（2005年6月）において発表。

(4) 官公庁、大学、財団などからの研究補助金を受けた場合は、下記の例に準じて記載する。

例1：

本研究は日本学術振興会科学研究費補助金（No. xxxxx）による。

例2：

本研究の一部は文部科学省科学研究費補助金（No. xxxxx）による。

7. 要旨（Synopsis）

(1) 研究報文および総説では、Synopsis（英文）と要旨（和文）を書く。短報では、Synopsis（英文）を書く。

(2) まず、下記の例に従い、著者名、出版年、表題、雑誌名、巻、頁を書き、続いて改行し

て、要旨の内容を書く。

- (3) 和文著者名の間は中点（・），英文著者名の間はカンマ（，）とする。
- (4) 英語（原語）表記の外国人著者名はファーストネーム，ミドルネーム，ラストネームの順とする。ファーストネームやミドルネームをイニシャルに略してもよい。
- (5) 雑誌名は，Synopsis では「Jpn J Grassl Sci」（それぞれの略にピリオドは不要），要旨では「日草誌」とする。
- (6) Synopsis における英文表題（副題がある場合には副題を含む）は，II. 3. (6)に従って記載する。
- (7) 出版年，巻，頁の未定部分は「x（小文字のエックス）」で記入する。頁範囲は，開始頁と終了頁を半角ダッシュ（en dash）で結ぶ（半角ダッシュが入力できない場合にはハイフンなどの記号で代替する）。
- (8) 要旨の内容は，英文で 200 語，和文で 350 字以内とし，原則として 1 段落にまとめる。読者が一読してその論文の内容を迅速かつ的確に把握できるように，研究の目的，材料，方法，結果，考察，結論などの概要を簡潔かつ具体的に記述する。

例 1：

Hiroyuki Sasaki, Kazunori Kohyama, Tetsuo Suyama, Masataka Fukuyama (xxxx) Effects of Global Climate Changes on the Zones of Forage Grass Cultivation in Japan. 1. Estimating changes in the cultivation zone and productivity of temperate grasses. Jpn J Grassl Sci xx : xxx-xxx

[区切記号の使い方に注意（雑誌名の略にピリオド不要，巻の後はコロン，最後にピリオド不要）]

例 2：

WempiePakiding・平田昌彦（xxxx）バヒアグラス（*Paspalum notatum* Flügge）の刈取耐性.
日草誌 xx : xxx-xxx

[区切記号の使い方に注意（巻の後はコロン，最後にピリオド不要）]

8. キーワード（Key words）

- (1) キーワード（Key words）を，日本語と英語で，II. 1. で指定された箇所に記載する。
- (2) キーワードは，研究報文，総説では 6 語以内，特集では 5 語以内，短報，実用記事，資料などでは 3 語以内とする。
- (3) キーワードは単語を「の」や「of」でつながないことを原則とする。
- (4) 記載法はキーワード：（Key words：）で始め，カンマで区切り，ピリオドで止める。英語キーワードは abc 順，日本語キーワードはアイウエオ順とする。日本語キーワード中に欧文用語が含まれる場合，日本語のキーワードの後に，abc 順に並べる。英語の各キーワードの最初の 1 文字は大文字とする。
- (5) キーワードは原則的に草地学用語集の中から選択することが望ましいが，適切な語がない場合には他の語を使用しても差し支えない。草地学用語集に記載されている用語について，その表記（送り仮名の有無など）は草地学用語集に従う

(例：刈取間隔)。

- (6) 適当な日本語訳のない英文用語は、できる限り、カタカナで表記する。
- (7) 英語キーワードは日本語に対応する語とすることが望ましいが、他の語を選んでもよい。
- (8) 学名をキーワードとするときには、原則として、命名者を省く。

9. 引用文献 (References)

- (1) 引用文献は、出版社や組織などによる出版物（印刷物あるいは電子形態）の全体もしくは一部とする。
- (2) 会議資料など、公ではなく、入手範囲が限られるものは、引用文献には含めず、本文中に（ ）書きで未発表または未公表として記載する [例：～（畜産草地研究所 未公表），（山本 未発表）]。
- (3) 論文を引用する場合には、印刷・発行済あるいは印刷中（受理済）のものとする。投稿中のものは、本文中に（ ）書きで投稿中もしくは未発表として記載する [例：～（平田・宮崎 投稿中），～（平田ら 未発表）]。
- (4) 引用文献は、著者名のある文献とない文献（組織名で始まる文献）を一括して、筆頭著者の姓または組織名の abc 順に並べる。同一筆頭著者や同一組織の文献は出版年順とする。引用時に著者（組織）名と出版年で特定できない場合には、出版年の後に a, b, c の文字を付ける。
- (5) 同一著者（組織）、同一雑誌による文献が続く場合にも著者（組織）名、雑誌名を略さない。また、著者、編者、訳者などが3名以上の時も、筆頭者の姓に“ら”をつけず、全著者名、全編者名、全訳者名を記載する。
- (6) 原稿の種類（研究報文、短報など）に関わらず、表題は省略しない。
- (7) 掲載誌名は略記とし、記述法は慣例による（ピリオド不要、イタリックにしない）。ただし雑誌名が1語の場合（例えば、Ecology）は省略しない。草地学会誌の和文論文を引用した場合の記載は41-50巻でも「Grassl Sci」ではなく「日草誌」。
- (8) 1巻の中が通し頁となっておらず、号ごとに1頁から始まる雑誌の場合は、巻（号）として表示する。
- (9) 単行本の一部を引用する際は、本の総頁ではなく、引用箇所を示すものとする（下記の例を参照）。特に、分担執筆の単行本については、著者名などの情報を適切に記載する。単行本の出版社名と出版社所在地（都道府県単位、海外の場合は州または県単位）を記載する。
- (10) ウェブサイトを引用する際は、著作権者とその所在地（都道府県単位、海外の場合は州または県単位）ならびに参照した日を記載する。

頁範囲は、開始頁と終了頁を半角ダッシュ（en dash）で結ぶ（半角ダッシュが入力できない場合にはハイフンなどの記号で代替する）。

本文中での文献の引用方法についてはⅢ. 4. を参照する。

例 1：雑誌

佐々木寛幸・神山和則・須山哲男・福山正隆 (2003) 牧草の地帯区分に及ぼす地球温暖化の影響. 1. 寒地型牧草の栽培適地と生産量の変動予測. 日草誌 49 : 23-27

[主題と副題が個別にある (コロンなどでつながっていない) 場合はどちらもピリオドで止める]

Hirata M, Sato R, Ogura S (2002) Effects of progressive grazing of a pasture on the spatial distributions of herbage mass and utilization by cattle : a preliminary study. Ecol Res 17 : 381-393

[英文の引用文献の場合は括弧(), コロン: 等全て半角文字で記載する]

例 2：講演要旨

河野道治・井村 毅・小迫孝実・福山正隆 (1989) シードペレットによる傾斜草地の簡易更新技術. 第 2 報 播種時期および播種法の検討. 日草誌 35 (別) : 229-230

[主題と副題が個別にある (コロンなどでつながっていない) 場合はどちらもピリオドで止める]

Bao G, Hirata M, Islam MA (2004) Effects of defoliation frequency on stolon development in centipede grass. Grassl Sci 50 (ext) : 96-97

例 3：単行本 (単著)

高槻成紀 (1998) 哺乳類の生物学 5. 生態. 東京大学出版会, 東京, p1-144

[総頁を示す場合]

Scholes RJ, Walker BH (1993) An African Savanna : Synthesis of the Nylsvley Study. Cambridge Univ Press, Cambridge, p126-141

[引用箇所の日を示す場合]

Manly BFJ, McDonald LL, Thomas DL, McDonald TL, Erickson WP (2002) Resource Selection by Animals : Statistical Design and Analysis for Field Studies. Kluwer Academic Press, Dordrecht, p1-15, 164-170

[複数引用箇所の日を示す場合]

例 4：単行本 (著者なし)

農林水産省農林水産技術会議事務局 (編) (2000) 日本飼養標準. 肉用牛 (2000 年版). 中央畜産会, 東京, p1-221

[総頁を示す場合]

National Research Council (1984) Nutrient Requirements of Beef Cattle. National Academy Press, Washington DC, p 38-46

[引用箇所の日を示す場合]

例 5：単行本 (分担執筆部分の引用)

阿部 亮 (2001) 栄養実験のための分析法. 新編 動物栄養試験法 (石橋 晃監修), 養賢堂, 東京, p455-496

Marriott CA, Haystead A (1993) Ni-trogen fixation and transfer. In : Sward Measurement Handbook

(Eds Davies A, Baker RD, Grant SA, Laidlaw AS), British Grassland Society, Reading, p245-264

[編集者が1名の時は「Ed」とする]

例6: 単行本(分担執筆)全体の引用(一部を引用する場合には、「分担執筆部分の引用」に準ずる)

自給飼料品質評価研究会(編)(1994)粗飼料の品質評価ガイドブック. 日本草地協会, 東京, p1-195

〔「編」は()書きとする。総頁を示すこと〕

Coupland RT (Ed) (1979) Grassland Ecosystems of the World : Analysis of Grasslands and Their Uses. Cambridge Univ Press, Cambridge, p1-401

〔「Ed」は()書きとし, 編集者が複数の時は「Eds」とする。総頁を示すこと〕

例7: 国際会議の論文集(プロシーディングズ)

Ogura S, Hirata M (2001) The effect of herbage mass of a pasture on the spatially heterogeneous grazing by cattle. Proc 19th Int Grassl Congr 289-291

例8: 報告書

山岸規昭・浅野昭三・安藤 哲(1989)乳用子牛の放牧育成がその後の生産に及ぼす影響. 寒地酪農における高生産性草地の管理・利用技術の確立(農林水産技術会議事務局編), 研究成果シリーズ213, 農林水産技術会議事務局, 東京, p110-116

例9: ウェブサイト

環境省(2005)平成16年度 ダイオキシン類に係る環境調査結果. 環境省水・大気環境局, 東京, <http://www.env.go.jp/air/report/h17-03/index.html> [2006年2月19日参照]

FAO (1999) Guidelines on social analysis for rural area development planning. Agricultural policy support service, FAO, Rome, <http://www.fao.org/tc/Tca/pubs/tmap34/tmap34.htm> [cited 2 November 2004]

例10: 複数号の一括表示(個別にリストすると多数に及ぶ時のみ)

沖縄県沖縄気象台(1998)沖縄県農業気象速報平成10年5月上旬-10月下旬(全18号). 那覇, p1-3(各号)

例11: 統計ソフトウェア

R Core Team (2020) R: A language and environment for statistical computing. R Foundation for Statistical Computing, Vienna, Austria, <https://www.r-project.org/>

III. 文の書式など

1. 書体, 表記ならびに用語

和文(全角)書体は明朝系とゴシック系を用いる。英文(半角)書体は Times Roman 系を用いる。サイズは11あるいは12ポイントを推奨する。ゴシック系書体(全角)を用いる箇所は, 表題(副題がある場合には主題), 大見出し(緒言, 材料と方法, 結果, 考察, 引用文献, 要旨など), その他小見出し, キーワードの見出しなどとする。

(1) 和文

- 1) なるべく常用漢字および新かなづかいを用い、口語体とする。
- 2) 句読点はカンマ (,) と句点 (。) を用いる (図表ではカンマとピリオドを用いる)。
- 3) 漢字, ひらかな, カタカナに加え, カッコ類 (「 」, (), [] など), カンマ (,), 句点 (。), ピリオド (.), コロン (:), セミコロン (;), 疑問符 (?) などの区切り記号は全角とする。ただし, 数値の小数点や桁区切りのカンマは半角とする。
- 4) 数字とアルファベットは全て半角とする。記号も基本的に半角とする。符号のマイナスには全角ハイフンを用いない (例えば, 「-P 区」ではなく「-P 区」のようにする)。
- 5) 外国語はできるだけ和訳し, 不必要に外国語を用いることは避ける。学術用語は原則として草地学用語集に従う。
- 6) 「and」の意味の「および」や「ならびに」はひらかなとする。

(2) 英文 (Synopsis と, 場合によって表紙と図表)

- 1) 英文は全て半角とする。
- 2) つづりが米英で異なるときには, 米式つづりを用いる。
- 3) 主として, 「turf-type」, 「above-ground biomass」, 「dry-matter digestibility」, 「non-lactating cow」, 「2-cm length」, 「fertilizer-N」など合成語の場合にはハイフンを, 「Experiments 1-3」, 「10-20kg」, 「mid-late May」, 「pepsin-cellulase technique」, 「mother-young distance」など範囲や独立した2語をつなげる場合には半角ダッシュ (en dash) を用いる (半角ダッシュが入力できない場合にはハイフンなどの記号で代替する)。

2. 項目別番号

項目細別番号は, 1., 2., 3., … ; (1), (2), (3), … ; 1), 2), 3), … ; i), ii), iii), … の順とする。

3. 図表の引用

- (1) 本文中で図表を引用する際には, 図表説明が英語でも図 1, 表 1 のように記載する。
- (2) 複数の図もしくは表の引用は以下の例による [連続番号は半角ダッシュ (en dash) で結ぶ (半角ダッシュが入力できない場合にはハイフンなどの記号で代替する)]。

例 1: 図 1-2

例 2: 図 1 および 3

例 3: 表 1, 3 および 5-7

例 4: 図 1-2 および表 1

4. 文献の引用

- (1) 本文や図表における文献の引用は, 著者あるいはそれに準じるものの名称と出版年による (両者の間には半角スペースを入れる)。従って, 例えば, 日本飼養標準 (1995) ではなく, 農林水産省農林水産技術会議事務局 (1995), あるいは日本飼養標準 (農林水産省農林水産技術会議事務局 1995) とする。
- (2) 著者が 2 名までは姓を記し (「・」で結ぶ), 3 名以上は筆頭者の姓に “ら” を付ける。

(3) 組織名で始まる文献も、組織が2つまでは名称を記し（「・」で結ぶ）、3つ以上は筆頭組織に“ほか”を付ける。

(4) 同一箇所でも複数の文献を引用する場合の順番は、出版年順とする（同一出版年の時はアルファベット順）。同一著者の文献はカンマ（,）で、異なる著者の文献はセミコロン（;）で結ぶ。

例 1:1 箇所で1つの文献を引用

～（平田 1995）。平田（1995）は…。

～（Takamizo 1990）。Takamizo（1990）は…。

～（平田・宮崎 1995）。平田・宮崎（1995）は…。

～（Takamizo・Ohsugi 2002）。Takamizo・Ohsugi（2002）は…。

～（平田ら 1990）。平田ら（1990）は…。

～（Takamizo ら 2000a）。Takamizo ら（2000a）は…。

～（北海道農業研究センター・東北農業研究センター1995）。

～（東北農業研究センターほか 1995）。

例 2:1 箇所で複数の文献を引用

～（平田ら 1990；平田 1995；宮崎 1997）。平田ら（1990），平田（1995）および宮崎（1997）は…。

～（Takamizo 1990；平田 1995；Takamizo ら 2000a, 2000b；Takamizo・Ohsugi 2002, 2005）。

5. 生物名（学名）

(1) 生物名や学名は草地学用語集に準じ以下のように記載する。

例：グリーンパニック，*Panicum maximum* Jacq. var. *trichoglume* Eyles

(2) 同じ学名を繰り返す場合は、混同の可能性のない限り、属名を略記し、命名者は省略してもよい。

例：*P. maximum* var. *trichoglume*

6. 物質名

物質名は原則として名称を記し化学式を用いない。ただし、化学式を用いた方がわかりやすいときはこの限りではない。

7. 機器名

研究に使用した機器については型番、メーカー名、メーカー所在地（都道府県）の順で記載する。

例：ホモジナイザ（HOM-1，攪拌株式会社，東京）

8. 略号

(1) 略号には省略を表すピリオドは付けない。

(2) 草地学用語集または草地学用語辞典に掲載されている略号，統計に関する一般的な略号，地名・所属に関する一般的な略号は定義なしに用いることができる。

例（統計）：SE, SD, CV, NS

例（地名，所属）：UK, USA, NY, Co, Ltd, Pty, Mfg, Inst, Inc

例（専門用語）：ADF, CP, CN比, NFE, TDN, TMR

(3) 統計に関する略号 *p*, *r*, *n*（斜体，赤の下線）

(4) その他の略号を用いるときは，要旨（Synopsis）と本文のそれぞれにおいて，最初に用いられる箇所で正式名称とともに（ ）書きで記載する。略号の由来は固有名詞を除いて小文字で表記する。

例：乾物消化率（DMD），細胞内容物（OCC, organic cell contents）

[固有名詞以外は小文字で始める]

9. 数字と数式

(1) 数字は原則としてアラビア数字を用いるが，熟語となっているものは漢字とする。

(2) 数値や数式のマイナスの符号にはハイフンを用いない（例えば，「-2g」ではなく「-2g」のようにする）。

(3) 値の範囲は，数字と数字を半角ダッシュ（en dash）で結んで示す（半角ダッシュが入力できない場合にはハイフンなどの記号で代替する）。

例：気温は 10-20°Cの範囲で推移した。

10. 単位

(1) 単位の記号はできるだけ国際的に慣用されているものを用いる（SI単位など）。

例：長さ；m

面積；m², a

体積；m³, l, L

質量；g, t

時間；h, min, s

濃度；%, N, mol, mg/L, g/kg, ppm, ppb

温度；°C, K

電気；A, V, W, Wh, Ω

放射線；Bq, Ci, Gy, R

エネルギー；J, W

その他；pH, Eh, pF, mmHg, bar, rpm, Pa, eq

(2) 倍数に関する接頭語は以下のものとする。

例：E (exa, 10¹⁸), P (peta, 10¹⁵), T (tera, 10¹²), G (giga, 10⁹), M (mega, 10⁶), k (kilo, 10³), h (hecto, 10²), da (deca, 10¹), d (deci, 10⁻¹), c (centi, 10⁻²), m (milli, 10⁻³), μ (micro, 10⁻⁶), n (nano, 10⁻⁹), p (pico, 10⁻¹²), f (femto, 10⁻¹⁵), a (atto, 10⁻¹⁸)

(3) 「mg」, 「μm」, 「m²」, 「cm³」などの記号は，全角1文字ではなく，半角（半角上付）の組合せとする。

(4) %と°C以外の単位は，数字と単位の間半角スペースを入れる。ただし，日本語の単位「本」「分」などの場合はスペースを入れない。

11. 文字スタイル指定

文字スタイルの指定はイタリック (____), ボールド (____) を赤の下線で示す。スタイルを指定する主なものは以下の通りである。

(1) イタリック (斜体)

学名 (属名, 種名), ラテン語起源の語 (例 : *in vitro*, *ad libitum*)

(2) ボールド (太字)

表題 (副題がある場合には主題), 大見出し (**Synopsis**, **緒言**, **材料と方法**, **結果**, **考察**, **引用文献**, **要旨**など), その他小見出し, **Key words** と **キーワード** の見出しなど

12. インデントおよび揃え

(1) 要旨 (Synopsis) ~ 謝辞における本文の各段落の行頭は 1 文字分下げる。また, 引用文献リストはぶら下がりインデントとする。

(2) 表紙における表題および著者名, 本文における要旨, 緒言, 材料と方法, 結果, 考察, (結果と考察), 謝辞, 引用文献などの大見出し (その他の小見出しは除く) はセンタリングする。

IV. 図表の書式など

1. 図 (写真を含む) の書式

(1) 図は, 原則として, 図中の文字, 数字, 軸の説明も含めてコンピュータソフトウェアで作成し, そのまま製版可能なようにする。軸, 折線などの線の太さが細すぎて, 印刷時にかすれないように注意する。

(2) 図ならびに写真は 1 つずつ A4 版の用紙に作成し, 余白に著者名と図の番号を入れる。

(3) 軸の説明 (単位は () 書きとする) は 1 つづきとして, 軸に平行して, また, 軸と説明文の中央をあわせて記入する。

(4) 図および写真の見出しや説明などは, 図および写真の下方に記載するか, 別紙に一括して記載する。注は不要。表の注のような関連付け (図中の当該部分とその説明部分を^{1, 2, 3, …, a, b, c, …}, もしくは A, B, C, … の肩文字により関連付けること) はしない。

(5) 図および写真の見出しは, 「図 1.」, 「Fig. 1.」のように始め, 最後にピリオドを打つ。説明の最後にもピリオドを打つ。見出しと説明は和文, 英文のいずれか一方とし併記しない。

(6) 手書きの図は A4 版の白紙または青緑の方眼紙に図中の文字, 数字, 軸の説明も含めて墨書し, そのまま製版可能なようにする。図のトレースや文字の写植を依頼する場合には, 原図に鉛筆で直接書き込む。トレースと写植の費用は著者負担とする。

2. 表の書式

(1) 表は 1 つずつ A4 版の用紙に作成し, 余白に著者名と表の番号を入れる。

(2) 表は横わく線のみを使用し, 縦わく線などは用いない。なお, 最上線は二重の実線 (————) とし, 他は全て実線 (————) とする。

- (3) 表中の単位は () 書きとする。
- (4) 表の見出しはその上方に、注の説明は下方に記載する。見出しは、「表 1.」, 「Table 1.」のように始め、最後にピリオドを打つ。注は肩文字とし、^{1,2,3, …}, ^{a, b, c, …}, もしくは ^{A, B, C, …}とし、^{*}, [§], [#]などの記号は使わない。注の説明の最後にもピリオドを打つ。見出しと説明は和文、英文のいずれか一方とし併記はしない。
- (5) 項目行の項目名は左右中央揃え、上下中央あるいは下揃えとする。項目列の項目名は左揃え、上揃えとする。

3. 図表位置

図表の挿入位置を本文右余白に示す（例：←図 1, ←表 1）。

V. 割 付

割付は原則として編集幹事と印刷所に一任するが、不都合があれば著者校正時に指摘する。

VI. そ の 他

- (1) その他、原稿の書式などについては、最新号を参照する。
- (2) 最終原稿（本文、図、表）は電子メールにファイルを添付して提出する。ファイルは Windows OS で読める形とし、本文は一般的なワープロソフト（Word など）で、図表に関しては作図、作表したソフトウェアの形式のまま別ファイルで保存し提出する。